国家とその運営

令和６年１０月３１日
黒田インターナショナルコンサルティングLLC
黒田　毅

至誠を尋ね、未来をなす。私心を離れ、国事を得る。これのみである。

これらが学術性の利用を経て、進歩を行うのである。それが未来という可能性である。またこれらは未来の創造を新しい人材の登用において可能とできるのである。

既得権益はもはや未来に通用しない。未来はその不確定性において優秀な人材がそれを創造するのである。

これらは既存現実の崩壊が存在する。これが今日の日本の現実である。そのため未来が必要なのである。

これは蓄積されたソフト資産を未来に引き継ぐことなのである。その理解性が現実を可能とするのである。

これは温故創新という言葉が、適切である。現実を創造し行うには高い知性における未来の創造を求められるのである。

これが歴史を引き継ぎ、未来を創造するということなのである。

この飛躍が未来の実現を与えるのである。それらは未来の担う人材を要求するのである。

これらは既存現実とシステムが過去という現実の調和するものであり、新しいコンピュータ時代における変化への対応が新しい社会システムと未来を実現できるのである。

政治は国民の先頭に立ち、未来を行うのである。そして国民はそれを追うのである。

人々の模範としての自己は、自己を改め、正すことで新しい未来を可能とできるのである。

これは政治における使命と要求であり、その責任を放棄するのでなく、それを行うことで未来を実現できるのである。